捕獲した生きものを記録

テナガエビ

ギンブナの若魚

しゃくじい
石神井池
水辺
しんぶん
かいぼりを軸とした水辺再生の取組をつたえる
No. 5
2023 年 1 月
登録番号４（６）
発行
東京都東部公園緑地事務所
https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jimusho/toubuk/index.html
編集
認定 NPO 法人 生態工房
https://www.eco-works.gr.jp/

2022 年水生生物モニタリング &アメリカザリガニ防除結果

石神井池では、2021 年 1 月から 3 月にかいぼりを行ってオオクチバスなどの外来魚を駆除しました。かいぼり以降も、水辺再生の取組の一環として水生生物のモニタリングやアメリカザリガニ駆除を継続しています。調査からわかった、かいぼり後の石神井池の水生生物の状況を報告します。

抱卵しているスジエビ

張網調査の様子

回復した在来種

かいぼり前の石神井池には、外来魚のオオクチバスやブルーギルが多く生息しており、在来種の魚やエビが減少していました。

かいぼりで外来魚を駆除した後、2021 年から張網（定置網）3 個を使って魚類などのモニタリングを行っています。その結果、同年にギンブナやスジエビなどの在来種が大幅に増加し、2022 年も、かいぼり前より多い状態で推移していることがわかりました（図1）。稚魚や稚エビが外来魚からの捕食を免れて、個体数が回復したと考えられます。

小型の在来魚やエビが回復した結果、これらを食物とする水鳥のカイツブリのつがいやヒナの数も増加。石神井池に生きもののにぎわいが生まれています。

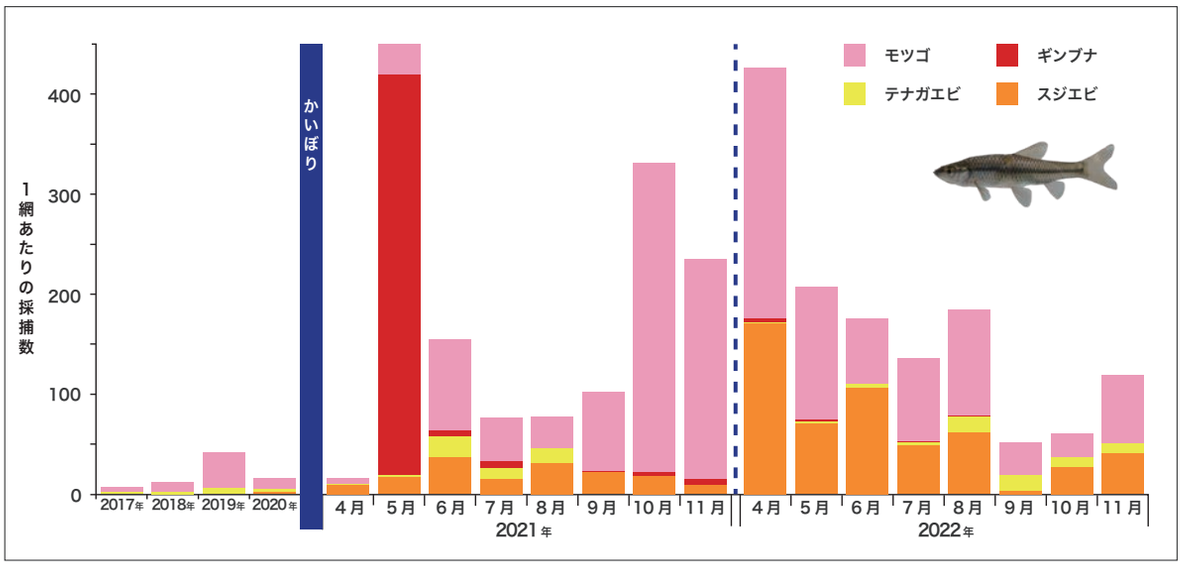
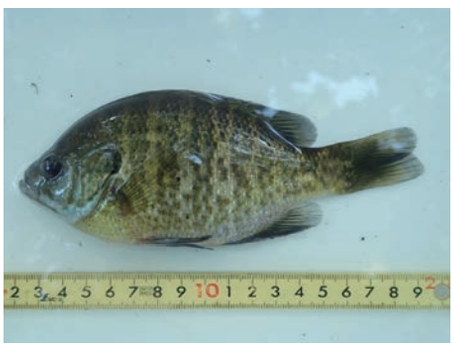


図 1. 張網 1 個あたりの在来種採捕数の推移　※2020 年までの調査は東京都公園協会による
※このほか、ニホンウナギ、ドジョウ、クロダハゼが少数採捕された

外来魚の繁殖も・・・

残念ながら、かいぼりではすべての外来魚を駆除できたわけではありません。オオクチバスなどの大型個体の相当数を駆除しましたが、取り切れなかったものが、かいぼり後に繁殖を始めています。外来魚が多い状態に逆戻りしないように対策を講じていく必要があります。


繁殖可能な大きさに成長したブルーギル。
再増加しないように対策が必要だ。

アメリカザリガニ対策

アメリカザリガニは、昆虫や貝類などの水生生物、水草などを食害して生態系に被害をおよぼしていることから、特定外来生物に指定されることが2023年1月に決まりました。

本種はかいぼりをしても泥の中へ待避するので、十分に駆除することができません。石神井池では、かいぼり後に池全体に捕獲ワナを設置し、4月から10月の毎週、駆除作業を行っています。

2022年の作業では、前年（7645匹）を超える10651匹を駆除しましたが、現時点で減少傾向は確認されていません。本種の対策では、捕獲効率のよいワナを数多く使用する必要があります。引き続き駆除圧を高めていきます。

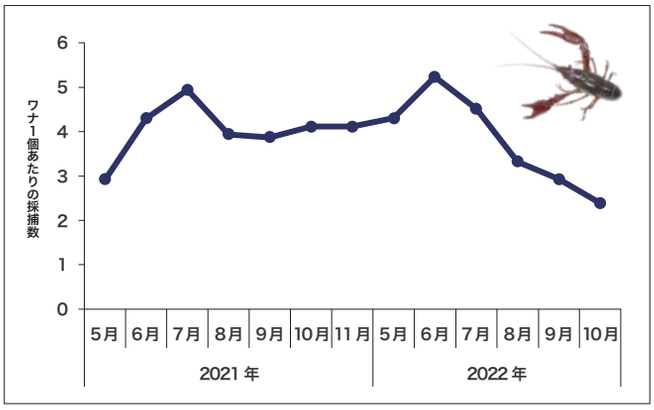


図 2. 捕獲装置によるアメリカザリガニ採捕数の推移

アメリカザリガニ捕獲装置の回収作業

ピックアップ！ News

自然誌学校開催しました

9月24日(土)～25日(日)の2日間、三宝寺自然誌学校が開催されました（主催：東京都公園協会）。園内で生物多様性保全に取り組んでいる活動団体などが出展し、展示や体験イベントを行いました。

東京都からは、石神井池に生息する水生生物の水槽展示、かいぼりの成果、協働によるキショウブ駆除や湿地再生の取組について紹介しました。キショウブ駆除と湿地再生の取組紹介では、根茎ごと掘りとったキショウブの実物展示が好評でした。根茎の長さに驚き、外来種の繁殖力の強さを実感する人が多くいたほか、保全作業に参加したいという声も多く寄せられました。

展示ブースの様子

石神井公園で活躍する活動団体の展示も

エサやりダメ！

野生の鳥たちは、自然の中にあるものを食べて生活しているので餌を与える必要はありません。

鳥インフルエンザ対策の観点からも、野鳥を慣れさせて人との距離を縮める行為はおやめください。

しゃくじい自然図鑑

冬のカモ
（写真はオナガガモ）

湖沼が凍結する北国から、さまざまなカモが渡ってきました。数が多いのは、白と黒がはっきりした羽色のキンクロハジロ。オナガガモもよく見かけます。

カモたちは近隣の水辺を広く利用してしており、石神井池で見られる種類や数は日々、変動しています。今日はどんなカモが来ているでしょうか？